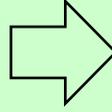


ドローン等を活用した農作業の効率化により生産性を向上 ～紀の川市：神徳農園～

経営体の概要

実施前：平成28年
基幹作物：水稲、イチジク、キャベツ
経営面積：1.15ha



現在：令和4年度
基幹作物：水稲、イチジク、あかかぶ
経営面積：1.15ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成30年までは家族4人で農業をしていたが、両親が高齢化してきたことから、経営者が1人で農業をしている。

「ひとり農業」をスローガンにして、できる限り自分のみで農作業を行うため、作業内容の見直しや効率化を図るための新しい農業技術、作業方法を常に模索している。

水稲の農薬散布にはドローンを導入することにより省力化を図っている。

国営事業により用水施設が改修され、安定的に用水が供給されている。

営農改善のポイント

①省力化

水稲では、防除作業を動力噴霧機で行っていたが、ドローンの導入により省力化を図っており、導入前は8時間掛けていた作業時間が50分に短縮された。防除作業はドローン会社の担当と一緒にっており、常に作業効率の向上に努めている。

病気の発生や米の等級からドローンによる薬散でも動力噴霧器による薬散と比べて防除効果には遜色はないと考えている。



【ドローンによる水稲の防除作業】

②栽培技術の確立・向上

紀の川市と近畿大学生物理工学部が結ぶ包括連携協定の取り組みに、イチジクに対する土壌改良資材の効果の実証調査に参加している。土壌改良資材がイチジクの穂木に与える影響について明らかになってきていることから、ほ場に移植した時の根の活着具合について引き続き実証調査を行う予定である。



【神徳農園のイチジク】

③流通・販売の工夫

白イチジクのバローネとあかかぶは少量の出荷で専門店で販売してもらうことでブランド化を目指している。取組んで4年目だが、白イチジクは東京のフランス料理店や大阪のフルーツ専門店で取り扱われている。

6次産業化の取組を今年から始めており、規格外のイチジクを有効利用して利益に繋がらないかと3年前から検討を重ね、現在ではジャム、ドライフルーツ等の商品を道の駅「青州の里」でテスト販売している。

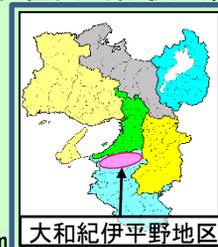


【箱詰めされたあかかぶ】

事業概要

事業種：国営農業用水再編対策事業
関係市町：和歌山市 外4市2町
受益面積：5,633ha(地区全体：12,359ha)
事業期間：平成13年～平成29年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム改修1箇所、頭首工改修4箇所、
揚水機場改修2箇所、用水路改修L=304km

位置図（和歌山県）



<問い合わせ先>
近畿農政局
農村振興部農地整備課
電話：075-451-9161
(内線2528)

(令和4年度調査時点)